	ory of Academic resouces			
Title	マルクス派最適成長論とマルクス派数理政治経済学の展開			
Sub Title	Marxian optimal growth theory and Marxian formal economics on politics			
Author	大西, 広(Onishi, Hiroshi)			
Publisher	慶應義塾大学			
Publication year	2021			
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)			
JaLC DOI				
Abstract	マルクス派最適成長論の研究は、この研究を集大成した単著『マルクス経済学(第三版)』2020年の第4版を目指した改定作業として本資金を使って継続された。具体的には、マルクス地代論を数理的に発展させた『三田学会雑誌』第114巻第1号の論文および論文の形をとれていないが、日本漁業史の整理による当該書館章第2節の追加、さらには構識3における分析的マルクス主義の資本貨借モデルの拡張による企業規模格差変動モデルの書き換えである。この最後のものは、この補論3モデルを部分的に一般化した吉井舜也の『政経研究』第110号論文(2018年)をさらに一般化した吉井舜也の『政経研究』第110号論文(2018年)をさらに一般化した青井舜也の『政経研究』第110号論文(2018年)をさらに一般化した青井舜也の『政経研究』第110号論文(2018年)をさらに一般化した青井舜也の『政経研究』第110号論文(2018年)をさらに一般化した青井舜也の『政経研究』第110号論文(2018年)をさらに一般化した青井舜也の『政経研究』第110号論文(2018年)をさらに一般化した青井舜也の『政経研究』第110号論文(2018年)をさらに一般化した青井舜也の『政経研究』第140号論文(2018年)をさらに一般化した青井舜也の『政経研究』第140号論文(2018年)をさらに一般化しまることができた。また、マルクス派数理政治経済学』を出版した。ここでは、多数決政治のメカニズムと問題点また、マルクス派数理政治経済学』を出版した。ここでは、多数決政治のメカニズムと問題点、理論と実際のそれぞれに関する過去の研究をフォローした上で、今年度内では、特に、レーン『帝国主義論』が現実世界経済にどのようのよれでいるがとの中心を開始は、特別では、特別で、2018年ので、			
	Research Paner			
Genre	Research Paper			
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210113			

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2021 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	経済学部	職名	教授	補助額	200 (B)	<b>(D)</b>	千円
柳九八衣名 	氏名	大西 広	氏名(英語)	Hiroshi Onishi			( <b>D</b> )	ТП

#### 研究課題 (日本語)

マルクス派最適成長論とマルクス派数理政治経済学の展開

### 研究課題 (英訳)

Marxian Optimal Growth Theory and Marxian Formal Economics on Politics

# 1. 研究成果実績の概要

マルクス派最適成長論の研究は、この研究を集大成した単著『マルクス経済学(第三版)』2020 年の第 4 版を目指した改定作業として本資金を使って継続された。具体的には、マルクス地代論を数理的に発展させた『三田学会雑誌』第 114 巻第 1 号の論文および論文の形をとれていないが、日本漁業史の整理による当該書第 6 章第 2 節の追加、さらには補論 3 における分析的マルクス主義の資本貸借モデルの拡張による企業規模格差変動モデルの書き換えである。この最後のものは、この補論 3 モデルを部分的に一般化した吉井舜也の『政経研究』第 110 号論文(2018 年)をさらに一般化し、資本蓄積の不均等発展が雇用規模の不均等発展を導くとしたものであり、これはこの研究をさらに延長して医療機関間の規模格差の歴史的変動を分析する修士院生の研究にも大いに役立たせることができた。

また、マルクス派数理政治経済学については、慶應義塾経済学会の支援もえて慶應義塾出版会から編著『マルクス派数理政治経済学』を出版した。ここでは、多数決政治のメカニズムと問題点、理論と実際のそれぞれに関する過去の研究をフォローした上で、今年度内では、特に、レーニン『帝国主義論』が現実世界経済にどのように表れているか(その中心問題は米中摩擦)、また古代ローマの奴隷制と結びついた古代帝国主義の問題をどう数理化するかというところに重点を置いた研究を行なった。また、この書物の出版後も、2次元4象限で定義された「4階級」が安定的な同盟関係を結べる条件を調べる研究も行っている。これは現在、学会誌に投稿中である。なお、この研究と関わり、階級関係をあいまいにする民族主義や排外主義の問題を香港や新疆問題について実証する論文も書いている。

# 2. 研究成果実績の概要(英訳)

Research on the Marxian theory of optimal growth was continued with this fund as revision work for the fourth edition of my book: Marxian Economics (Third Edition) in 2020, which is the culmination of this research. Specifically, I wrote a paper to the Mita Gakkai Zasshi (Mita Journal of Economics), Vol. 114, No. 1, which mathematically developed Marx's theory of land rent, and Chapter 6, Section 2 for the fourth edition of Marxian Economics, which is not yet published, explaining the history of the Japanese fishing industry. Furthermore, I prepared a revised version of Appendix 3 of Marxian Economics which is a rewrite of the model of changes in firm size inequality by extending the Analytical Marxists' capital lending model. This last one is a further generalization of Shunya Yoshii's paper in Political Economy Quarterly, No. 110, 2018, which partially generalizes this Appendix 3 model, and clarified that uneven development of capital accumulation leads to uneven development of employment size. This was also very useful for my master course student's research to analyze the historical variation of size disparity among health care institutions.

In addition, with the support of the Keio Economic Society, I published a book: Marxian Formal Economics on Politics from Keio University Press. In this book, I followed up some researches on the mechanism and problems of majority rule politics, theory and practice, and especially in this year, I focused on how Lenin's theory of imperialism is expressed in the real world economy (the central problem is the friction between the U.S. and China), and how to formalize the ancient imperialism linked to slavery in ancient Rome. After the publication of this book, I have also been conducting a research on the conditions under which the "four classes" defined in the two-dimensional four quadrants can form stable alliances. This research is currently being submitted to an academic journal. In connection with this research, I also wrote a paper on Hong Kong and Xinjiang issues to demonstrate the problems of nationalism and exclusionism that obscure class relations.

nationalism and exclusionism that obscure class relations.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
大西広、小沢修司、森本壮 亮ほか	時代はさらに資本論	昭和堂	2021年5月			
大西広編	マルクス派数理政治経済学	慶應義塾大学出版会	2021 年 10 月			
大西広	政治変革における「中間層」の独自 な重要性について大西(2018)社 会運動モデルへの非対称性の導 入-	『季刊経済理論』第 58 巻第 1 号	2021 年 4 月			
大西広	排外主義の世界的拡がりと香港 「民主派」「少数民族運動」との類 似点とも関わって	『研究中国』第 12 号	2021 年 4 月			
大西広	コブ・ダグラス型関数によるマルクス差額地代論の一般化-いわゆる「エンゲルス方式」地代計算論とも関わって	『三田学会雑誌』第 114 巻第 1 号	2021 年 4 月			
大西広	毛沢東、鄧小平、習近平三代領導 人的執政能力	共同見証百年大党(下冊)	2021年7月			

大西広	「ウイグル問題」に関する西側キャンペーンを検証する	『社会主義理論研究』第 1 号	2021 年 9 月
大西広	政権党となるために求められるナ ショナリズムとの闘い	『フラタニティ』第 24 号	2021年11月
大西広	米中摩擦の『帝国主義論』的解 釈日米摩擦との類似性と先発/ 後発帝国主義のモデル分析	『経済科学通信』第 154 号	2021 年 12 月
大西広	東洋的専制と西洋的奴隷制西洋 帝国主義の民主主義的起源	『政経研究』第 117 号	2021年12月
大西広	国家奴隷制、家父長制的奴隷制と 国家農奴制、封建農奴制古代ギ リシャ・ローマ論との関わりでの中 村(1977)再読	『新しい歴史学のために』第 299 号	2022 年 6 月予定